

ID No.	2036
研究課題名	遺伝性網膜視細胞変性症の初期病態の同定と発症機構の解明
研究代表者	村上 晶 (順天堂大学・教授)
研究組織 受入教員 研究分担者	渡邊 すみ子 (東京大学医科学研究所・特任教授) 新井 英介 (順天堂大学・助教) 岩川 外史郎 (東京大学医科学研究所・特任研究員)
研究報告書	
前年度に同定しクローニングしたEYS会合タンパク質について、網膜内での役割を検討するため、sh-RNAにより網膜で発現を低下させ、その影響を検討した。取り出したマウス網膜にin vitroでエレクトロポレーションにより、sh-RNAを含むプラスミドを導入し、この網膜をフィルター上で二週間培養し成熟させた。培養数日後より、網膜の厚みが薄くなり、二週間後に凍結切片を作成し検討すると増殖のみならず分化も影響を受けていることがわかった。したがってこの分子が網膜発生に必須であることが明らかになったが視細胞での影響を観察したいため、視細胞が成熟してから誘導的に標的分子の発現を落とすことのできるプラスミドを作成し検討を続けている。また同時にin vitroで網膜変性を誘導し検討する必要があるため、Killer Redという光照射によって活性酸素を発して細胞が死ぬ系を視細胞特異的プロモーターを用い、様々な光照射条件を検討して立ち上げた。	